

別紙2 北海道留寿都高等学校介護職員初任者研修課程カリキュラム【令和7年度入学生用】

科目名	職務の理解	時間数	6時間
ねらい	研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		担当教官名
項目	多様なサービスの理解		山形 孝宏
内容	○介護保険サービス(居宅、施設) ○介護保険外サービス		
項目	介護職の仕事内容や働く現場の理解		西山 らな
内容	○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携		

科目名	介護における尊厳の保持・自立支援	時間数	9時間
ねらい	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。		担当教官名
項目	人権と尊厳を支える介護		高橋 ゆりか
内容	○個人として尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護 ○介護分野におけるICF ○QOLの考え方、生活の質 ○ノーマライゼーションの考え方 ○身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援 ○個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業		
項目	自立に向けた介護		高橋 ゆりか
内容	○自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性・個別ケア、重度化防止 ○介護予防の考え方		

科目名	介護の基本	時間数	6時間
ねらい	・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。		担当教官名
項目	介護職の役割、専門性と多職種との連携		福山 典子
内容	○訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 ○重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護 ○チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種から成るチーム ○異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、 ○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担		
項目	介護職の職業倫理		福山 典子
内容	○専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重		
項目	介護における安全の確保とリスクマネジメント		高橋 めぐみ、島 廣樹、並川 真央、森谷 太規、須田 三郎、安藤 美咲
内容	○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード ○リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告、情報の共有 ○感染の原因と経路、「感染」に対する正しい知識		
項目	介護職の安全		黒田 南、山崎 岬
内容	○介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策		

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	時間数	9時間
ねらい	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。		担当教官名
項目	介護保険制度		高橋 ゆりか
内容	○ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進 ○保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順 ○財政負担、指定介護サービス事業者の指定		
項目	医療との連携とリハビリテーション		工藤 さとみ
内容	○医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念		
項目	障害者総合支援制度およびその他制度		高橋 ゆりか
内容	○障害の概念、ICF(国際生活機能分類) ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定 ○個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業		

別紙2 北海道留寿都高等学校介護職員初任者研修課程カリキュラム【令和7年度入学生用】

科目名	介護におけるコミュニケーション技術	時間数	6時間
ねらい	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なること、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。	担当教官名	
項目	介護におけるコミュニケーション	黒田 南、山崎 岬	
内容	○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答 ○言語的コミュニケーションの特徴、非言語コミュニケーションの特徴 ○利用者の思いの把握、意欲低下の要因、共感、家族の心理的理解・いたわり・励まし、信頼関係の形成、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ○視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術		
項目	介護におけるチームのコミュニケーション	山形 孝宏	
内容	○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書、ヒヤリハット報告書、5W1H ○報告・連絡・相談の留意点 ○会議、情報共有の場、役割の認識の場、ケアカンファレンスの重要性		
科目名	老化の理解	時間数	6時間
ねらい	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。	担当教官名	
項目	老化に伴うところとからだの変化と日常	高橋 めぐみ、島 廣樹、並川 真央、森谷 太規、須田 三郎、安藤 美咲	
内容	○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、防衛反応(反射)の変化、喪失体験 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響		
項目	高齢者と健康	工藤 さとみ	
内容	○高齢者の疾病と生活上の留意点、骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 ○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点		
科目名	認知症の理解	時間数	6時間
ねらい	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	担当教官名	
項目	認知症を取り巻く環境	福山 典子	
内容	○認知症ケアの理念、パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点		
項目	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	工藤 さとみ	
内容	○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理		
項目	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	福山 典子	
内容	○認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状(BPSD)、不適切なケア、生活環境で改善 ○認知症の利用者への対応		
項目	家族への支援	高橋 めぐみ、島 廣樹、並川 真央、森谷 太規、須田 三郎、安藤 美咲	
内容	○認知症の受容課程での援助、介護負担の軽減(レスパイトケア)		
科目名	障害の理解	時間数	3時間
ねらい	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。	担当教官名	
項目	障害の基礎的理解	工藤 さとみ	
内容	○障害の概念とICF、ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方 ○障害者福祉の基本理念、ノーマライゼーションの概念		
項目	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援などの基礎的知識	工藤 さとみ	
内容	○身体障害(視覚障害、聴覚・平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害) ○知的障害 ○精神障害(統合失調症・気分(感情)障害・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、発達障害) ○その他の心身の機能障害		
項目	家族の心理、かかわり支援の理解	高橋 めぐみ、島 廣樹、並川 真央、森谷 太規、須田 三郎、安藤 美咲	
内容	○家族への支援、障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減		

別紙2 北海道留寿都高等学校介護職員初任者研修課程カリキュラム【令和7年度入学生用】

科目名	ところとからだのしくみと生活支援技術	時間数	75時間
ねらい	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		担当教官名
項目	介護の基本的な考え方		高橋 ゆりか
内容	○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)、法的根拠に基づく介護		
項目	介護に関するところのしくみの基礎的理解		西山 らな
内容	○学習・記憶・感情・意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、適応行動とその阻害要因、ところの持ち方が行動に与える影響、体の状態がところに与える影響		
項目	介護に関するからだのしくみの基礎的理解		工藤 さとみ
内容	○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、利用者の様子の普段との違いに気づく視点		
項目	生活と家事		西山 らな
内容	7		
項目	快適な居住環境整備と介護		山形 孝宏
内容	○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法		
項目	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		高橋 めぐみ、島 廣樹、並川 真央、 森谷 太規、須田 三郎、安藤 美咲
内容	○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果		
項目	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		高橋 めぐみ、島 廣樹、並川 真央、 森谷 太規、須田 三郎、安藤 美咲
内容	○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援		
項目	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		酒井 さゆり
内容	○食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援		
項目	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		西山 らな
内容	○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
項目	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		西山 らな
内容	○排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
項目	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		山形 孝宏
内容	○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
項目	死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護		野村 英梨
内容	○終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への課程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援		
項目	介護過程の基礎的理解		西山 らな
内容	○介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ		
項目	総合生活支援技術演習		山形 孝宏
内容	○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点		
科目名	振り返り	時間数	4時間
ねらい	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		担当教官名
項目	振り返り		山形 孝宏
内容	○研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点		
項目	就業への備えと研修修了後における継続的な研修		高橋 ゆりか
内容	○継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について		